

実施日：令和7年6月5日（木） コマ：2

事業名：道路事業（直轄・交通安全対策）

【とりまとめコメント】

- ・ これまでのやりとりを通じて、適切な検討が進められたことは評価したい。今後進める短期アウトカムの設定の検討は示された方向性でよいのではないか。網羅性や厳格性にとらわれることなく、自らの取り組みが、それぞれの事業実施地点において事業の目的に適った効果が発揮できているか、なんらかの形で把握できることが重要。当初の目論見と違った場合に必要に応じて追加的な改善が俊敏に行われることも含め、本事業でも「基礎的な EBPM」をしっかりと進められたい。
- ・ 「ETC」のデータを利用できるのは、政策の効率化（事実に基づく政策策定）に寄与するであろうから、さらに利活用を進めることが必要であろう。それは、効果測定だけではなく、予測にも使えそうである。
- ・ 命を守る使命感の可視化と社会貢献の可視化を。世界一安全な道路交通の実現という理念を共有することで現場を鼓舞いただきたい。ETC2.0プローブデータなどのビッグデータの活用、匠の技とデータの融合を。事業推進者として指標設定にも裁量を。未来志向の技術導入を。
- ・ データに基づいて対策個所の選定や優先順位を定められている。制約条件はあろうが警察庁や市区町村との連携も行われている。長期アウトカムである交通事故死者数において、道路に起因すると想定される要因を抽出し、短期アウトカムとして検討いただき、重点地域や一定期間でその効果検証を行い、設定いただきたい。
- ・ 警察庁の交通事故死者数の分析を見ると、高齢化、飲酒運転、シートベルト有無、携帯電話使用等による渋滞時衝突など様々な原因があるところ、道路標識や交差点内の視認性など、ハード由来の原因の過去死者数を分析するなど、貴省としての目標値の精緻化を対応頂きたい。
- ・ 対策箇所の選定にあたっては、多様な関係者との連携、ビッグデータの活用等工夫されており、適切なものと考ええる。国民の命を守る大変重要な事業であり、一部の事業だけでもデータ等を活用した短期アウトカムが設定できるのであれば、事業のより正しい評価、理解につながるように思った。
- ・ 長期アウトカムの死者 2000 人以下はこの事業だけの要因だけではなく、さらなる車の性能向上や高齢者ドライバー対策など他の取り組みも踏まえて実現される。加えてこの事業としての効果は十分に出ていると考えられるので、死者 2000 人はインパクトとして、長期アウトカムは対策を実施したことによる事故件数の減少などのほうがなじむのではないか。「死者数が 2000 人を下回らない＝この事業の効果がない」とならないようにしたほうがよい。

【外部有識者のその他コメント】

- ・ データ収集を新たな技術を用いて負担なく進めていくというのは、今後の方向性に適ったもの。サンプル収集の方法の共有などを進め、省全体としても、担当部局・現場それぞれの負担のない展開を進められたい。
- ・ 長期：直轄道路関係の事故率（類型別：追突、出合がしら、歩行者、自転車等）指標へ。中期：ETC2.0プローブデータなど、個別個所の効果積み上げ、危険個所改善効果、通学路児童事故。短期：急減速、急ハンドル、速度超過率。繰り越し予算（用地買収か）早期発注・地域住民の理解の測定。費用効果分析：死傷者数減少対総事業費、B/C、B-C。事故率削減（危険個所）・総数削減（都市部通学路）・投資効率（速攻対策）を複合化した個所付け。
- ・ データの活用体制についてより有効な方法を検討いただきたい。
- ・ 4年間で約9000億円の予算がついており、事故死者数が下げ止まり傾向になる中、事故死者数を2600人から2000人に減らす目標値とのバランスでは、一人減らすのに15億円ほど予算が必要となるが、社会的な効率性の点から再検証をされたい。
- ・ 事故危険個所の対策実施をできる限り100%に近づけることが死者数の減少につながることでエビデンスから明確になっているので、100%に近づけるべく頑張ってください。

（以 上）